

カリキュラムマップ<リハビリテーション学科作業療法専攻> 2023年度以降入学生

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的

全学…教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

教育目標

リハビリテーション学科作業療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもつ作業療法士の養成を目的とする。

- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

※ディプロマ・ポリシーの番号は、P3の該当番号

| 教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー | | 項目 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 学習成果 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|---|-------------|--|--|--|---|-----------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|---|--|--|-----------------------------------|-------------------------------|
| 全学方針 | 学科方針 | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | 全学方針 | 学科方針 | | |
| <p>社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。</p> | 人間と科学 | 生物学 物理学 化学 人間工学 | 情報科学 環境と人間 | | | | | | <p>(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得</p> <p>豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得</p> | <p>(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。</p> | <p>(1) 広い視野と豊かな教養を身につけて、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。</p> | | |
| | 人間と社会 | 社会学 人間関係論 ホリスティック | 哲学 教育学 心理学 | | | | | 生命倫理学 | | | | | |
| | コミュニケーション | 基礎演習 文章表現法 英語Ⅰ(教養英語) | コミュニケーション学 | | | | | | | | | | |
| | 外国語 | | 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語 | | | | | | | | | | |
| <p>身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復、改善を促す作業療法の専門知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。</p> <p>地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。</p> <p>科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。</p> | 人体の構造 | 解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学演習(体表解剖・骨) | 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖・筋) | | | | | | <p>医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力の修得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはずす能力の修得</p> <p>学業を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を習得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはずす能力の修得</p> <p>対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得</p> <p>課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得</p> | <p>(2) 学業を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を習得し、多職種と連携・協働し、対処することができる。</p> <p>(3) 学業を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を習得し、多職種と連携・協働し、対処することができる。</p> <p>(4) 学術研究活動を通して作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけるため、生涯にわたって主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。</p> | | | |
| | 人体の機能 | 生理学Ⅰ(動物的機能) 運動学総論 | 生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 運動学各論(Ⅱ:臨床運動学) | 運動学演習 | | | | | | | | | |
| | 心身の発達 | 人間発達学 | | 内科学 整形外科学 神経内科学 小児科学 | | | | | | | | | |
| | 疾病の成り立ち | | 病理学概論 精神医学 | | | | | | | | | | |
| | 障害の成り立ち | | リハビリテーション医学 老年医学 公衆衛生学 医療安全管理論 社会福祉学 | 薬理学 | | | | 画像診断学 | | | | | |
| | 回復過程の促進 | リハビリテーション栄養学 | | | | | | | | | | | |
| | 保健・医療・福祉の連携 | 保健医療論 | | 作業療法研究方法論 | 多職種連携演習(IPE) | | | | | | | | |
| | 基礎作業療法学 | 作業療法総論 基礎作業療法学 基礎作業療法学実習 | | 作業療法研究方法論 | | | 卒業研究 | | | | | | |
| | 作業療法管理学 | | | | | | 作業療法管理学Ⅰ | 作業療法管理学Ⅱ | | | | | |
| | 作業療法評価学 | | 作業療法評価学概論 | 作業療法評価学Ⅰ(身障一般) 作業療法評価学Ⅱ(精神・認知・医服用像) 作業療法評価学演習Ⅰ(身障一般) 作業療法評価学演習Ⅱ(精神・認知・医服用像) | | | | | | | | | |
| | 作業療法治療学 | | 作業療法治療技術理論 | 認知症予防論 ニューロリハビリテーション論 精神障害治療論 作業行動理論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 老年期障害学 義肢装具学 精神障害学Ⅰ(総論) 発達機能障害学Ⅰ(総論) 日常生活活動学 生活技術学演習 | 中枢神経障害学 整形外科系障害学 内部機能障害学 高次機能障害学 精神障害学Ⅱ(各論) 発達機能障害学Ⅱ(各論) 応用生活技術学演習 作業療法総合セミナーⅠ(評価) | 作業療法特論Ⅰ(含略痰等吸引) 作業療法学総合演習Ⅰ(基礎) | 作業療法特論Ⅱ 作業療法学総合演習Ⅱ(専門) | | | | | | |
| | 地域作業療法学 | | | 地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携) | 生活環境・福祉機器学 | | 地域作業療法学Ⅱ(実践・疲労支援) | | | | | | |
| | 臨床実習 | 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目(臨床実習)を配置する。 | | 臨床実習Ⅰ(基礎) | 通所／訪問リハ実習 通所／訪問リハ実習セミナー | 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) | 臨床実習Ⅲ(総合前期) 作業療法総合セミナーⅠ(評価と介入①) | 臨床実習Ⅳ(総合後期) 作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②) | | | 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 | 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはずす能力の修得 | 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得 |

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

<リハビリテーション学科作業療法専攻>

